

広島交響楽団 ディスカバリー・シリーズ

Hiroshima Symphony Orchestra Discovery Series

ベートーヴェン生誕250周年交響曲シリーズ Hosokawa × Beethoven 4

広島交響楽団初のコンポーザー・イン・レジデンス細川俊夫の作品と共に
東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年は「被爆75年」「ベートーヴェン生誕250年」が交差する。
広島にとってかけがえのない二人の作曲家の出会いを下野・広響が2年間かけてプロデュースする。

2020.1.30 [木] 18:45開演 (17:45開場) **JMSアステールプラザ大ホール**

Thu January 30, 2020 Start 18:45 (Open 17:45) JMS ASTER PLAZA

program

ベートーヴェン: 「レオノーレ」序曲第1番
Beethoven: Leonore Overture No.1 Op.138

細川俊夫: 旅 VI ヴィオラと弦楽のための
Toshio Hosokawa: "voyage VI" For Viola and Strings

ベートーヴェン: 交響曲第4番変ロ長調
Beethoven: Symphony No.4 in B-flat major Op.60

コンサートマスター: 佐久間 聡一 Concertmaster: Soichi Sakuma

■ チケット料金 / S席:5,200円 A席:4,200円 B席:3,200円 (学生:1,000円)

※学生席は小学生以上、25歳以下の学生が対象。要学生証。(広響事務局のみ取扱い)

■ チケット発売日 / 一般プレイガイド 2019年11月30日(土)、広響事務局 2019年12月2日(月)

■ チケット取扱い / JMSアステールプラザ情報交流ラウンジ、エディオン広島本店、福屋八丁堀本店、福屋広島駅前店、
広島アーツ楽器、ヤマミュージック広島店管弦打楽器売場、ローソンチケット(Lコード:62689)、

チケットぴあ(Pコード:142-518)、中国新聞社読者広報部、中国新聞販売所(取り寄せ)、広響事務局

主催 / 公益社団法人広島交響楽協会、中国新聞社 共催 / 公益財団法人広島市文化財団

協賛 / 中国電力、広島銀行、広島電鉄、マツダ 後援 / 広島市、広島市教育委員会



HIROSHIMA SYMPHONY ORCHESTRA
～音楽が紡ぐ“緑”～

指揮: 下野 竜也

Conductor: Tatsuya Shimono

ヴィオラ: ルオシャ・ファン

Viola: Luosha Fang

助成 /



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会



公益財団法人アフィニス文化財団

※やむを得ぬ事情により、出演者・曲目等を変更する場合がございます。

※就学前のお子様のご入場はご遠慮ください。 ※開演時間に遅れた場合、入場に制限がございます。

お問い合わせ / 広響事務局 TEL : 082-532-3080 E-mail : info@hirokyo.or.jp http://hirokyo.or.jp/



広島交響楽団 ディスカバリー・シリーズ

Hiroshima Symphony Orchestra Discovery Series

ベートーヴェン生誕250周年交響曲シリーズ Hosokawa × Beethoven 4

指揮：下野 竜也

Conductor : Tatsuya Shimono

広島交響楽団音楽総監督(2017年4月就任)

1969年鹿児島生まれ。2000年東京国際音楽コンクール〈指揮〉優勝と齋藤秀雄賞受賞、2001年ブザンソン国際指揮者コンクールの優勝で一躍脚光を浴びる。

国内の主要オーケストラに定期的に招かれる一方、サンタ・チェチリア国立アカデミー管、チェコ・フィル、シュトゥットガルト放送響、ロワール管、南西ドイツフィル、シリコンバレー響をはじめとした国際舞台での活躍が目覚ましい。

2006年に読売日本交響楽団初代正指揮者に迎えられ、2013年4月から2017年3月まで同団の首席客演指揮者を務める。その間、2011年には広島ウインドオーケストラ音楽監督、2014年4月には京都市交響楽団常任客演指揮者に就任。2017年4月より同団常任首席客演指揮者に就任。

2002年出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、2006年第17回新日録音楽賞・フレッシュアーティスト賞、2007年第6回齋藤秀雄メモリアル基金賞、平成24年度(第63回)芸術選奨文部科学大臣賞、2014年度第44回東燃ゼネラル音楽賞奨励賞、2016年南日本文化賞・特別賞などを受賞。

鹿児島市ふるさと大使。おじゃんせ霧島大使。

京都市立芸術大学音楽学部指揮専攻教授。

公式ホームページ <http://www.tatsuyashimono.com/>



ヴィオラ：ルオシャ・ファン

Viola : Luosha Fang

2018年、第4回東京国際ヴィオラコンクール第1位入賞。8歳のときに中国でモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第3番でデビュー。16歳の時に、奨学金を得て渡米。アメリカのバード大学で、アイダ・カヴァフィアン、アーノルド・スタインハートに師事。卒業後はカーティス音楽院にてカヴァフィアン、シュミエル・アッシュケナーズに師事。その後、サンクトペテルブルク音楽院でアナトリー・レツニコフスキーに師事。2016年からソフィア王妃高等音楽院で今井信子に師事しヴィオラを本格的に学び始める。

マールボロ、ラヴィニア、ノーフォーク、アスペン等の国際音楽祭にも多数出演し、内田光子、今井信子、ブルーノ・カニーノ、ジュリアード弦楽四重奏団のメンバーと共演している。2019年の「Musicians from Marbolo」ツアーに参加、ヴィオラ奏者としてはマドリッド国立音楽堂での演奏会への出演、アトランティック・シンフォニーオーケストラとバルトークの「ヴィオラ協奏曲」で共演。日本では、2019年、名古屋フィルハーモニー交響楽団の5月定期公演でバルトークの「ヴィオラ協奏曲」を好演。ヴィオラスペース大阪・仙台・東京公演に出演。2019年秋からバード大学にて、ヴィオラとヴァイオリンの講師として後進の指導にあたる。2020年5月に再び来日予定。



©Pete Checchia



下野竜也&広響による「ディスカバリー・シリーズ」はこれまでも綿密さと大胆さを併せ持つ凝った内容が興味深かったが、2019年度からの新企画でも、ベートーヴェンの交響曲・序曲と細川俊夫の作品を組み合わせるという意外性のある発想がいかにも下野らしい。広島出身の国際的作曲家である細川の作品がシリーズで聴けるまたとない機会である、またそれと対比されるベートーヴェン作品に下野がどう斬り込んでいくのか、おおいに注目されよう。(アフィニス文化財団 オーケストラ助成委員 寺西 基之)